

自分らしい地域生活

No.2

発行 / 千葉市保健福祉

総務課

編集 / 地区フォーラム

広報委員会

若葉区地域福祉計画策定のための

貝塚・桜木・加曽利・大宮地区フォーラムニュース

このうち、本フォーラムの「貝塚・桜木・加曽利・大宮」地区で意見の最も多かったものは「交

キーワードと問題件数

交流、近隣関係の希薄化	17
安全、見守り	15
虐待、権利擁護	7
情報	7
居場所（物理的）	7
身近な生活支援	6
福祉教育	4
バリアフリー	3
サービスのネットワーク化、サービスの質の向上、社会参加	2
人材の確保、活用、育成	2
相談	2
自立支援	1

地区フォーラムでは、地域福祉計画策定体制（2ページ参照）に基づき、フォーラム委員により福祉サービスの現状を踏まえて問題点などを討議しており、「自助・共助・公助」といった視点から解決策を考えています。その流れの中で、参加したフォーラム委員から出された問題点を、共通した事項ごとに分類・収集して、「キーワード」としてまとめる作業を行いました。この作業の結果、全体で12項目のキーワードを見出すことが出来ました。全項目を表にまとめてあります。

「流・近隣関係の希薄化」です。「孤独や無気力の高齢者」に対して、尊厳ある暮らしができ、いつまでも若々しい心と自立した生活をして、「近所 老人会が万一のときでも気づくような体制作りは出来ないか、また「地域の子どもたち」に対して体験ボランティアや幼稚園、保育園、小学校間の交流が不足していないか」といったことが挙げられました。また次に多かったものは「安全・見守り」です。「痴呆のご主人が何時も目を離せない。どう手助けして

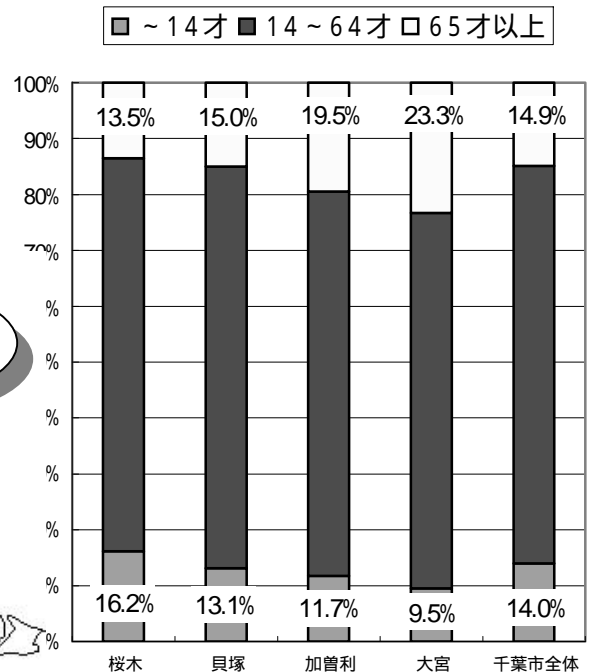
地区フォーラムでは、地域福祉の充実を目指し、その地区ごとに固有の問題点について検討し、いくつかの「キーワード」を見出してきました。主なものとして、「安全・見守り」、「交流・近隣関係の希薄化」、「虐待・権利擁護」、「情報」といったものでした。

地域の「キーワード」

「よいか分からない。」といった意見や、老人の孤独死、子どもの虐待の対策をより強化できないか、といった提案がなされています。

地区フォーラムではこういったキーワードを「生活課題」として話し合いの中心として考え、今後の活動で問題をより深く掘り起こし、現状サービスを検討し、今後必要と考えられる福祉サービスとして、自助（問題を抱える本人や親族の方でできること）・共助（近隣や自治会などでできること）・公助（市や福祉関連施設など、公的サービスでできること）の視点でまとめていき、

地域の年齢分布 平成16年3月末現在



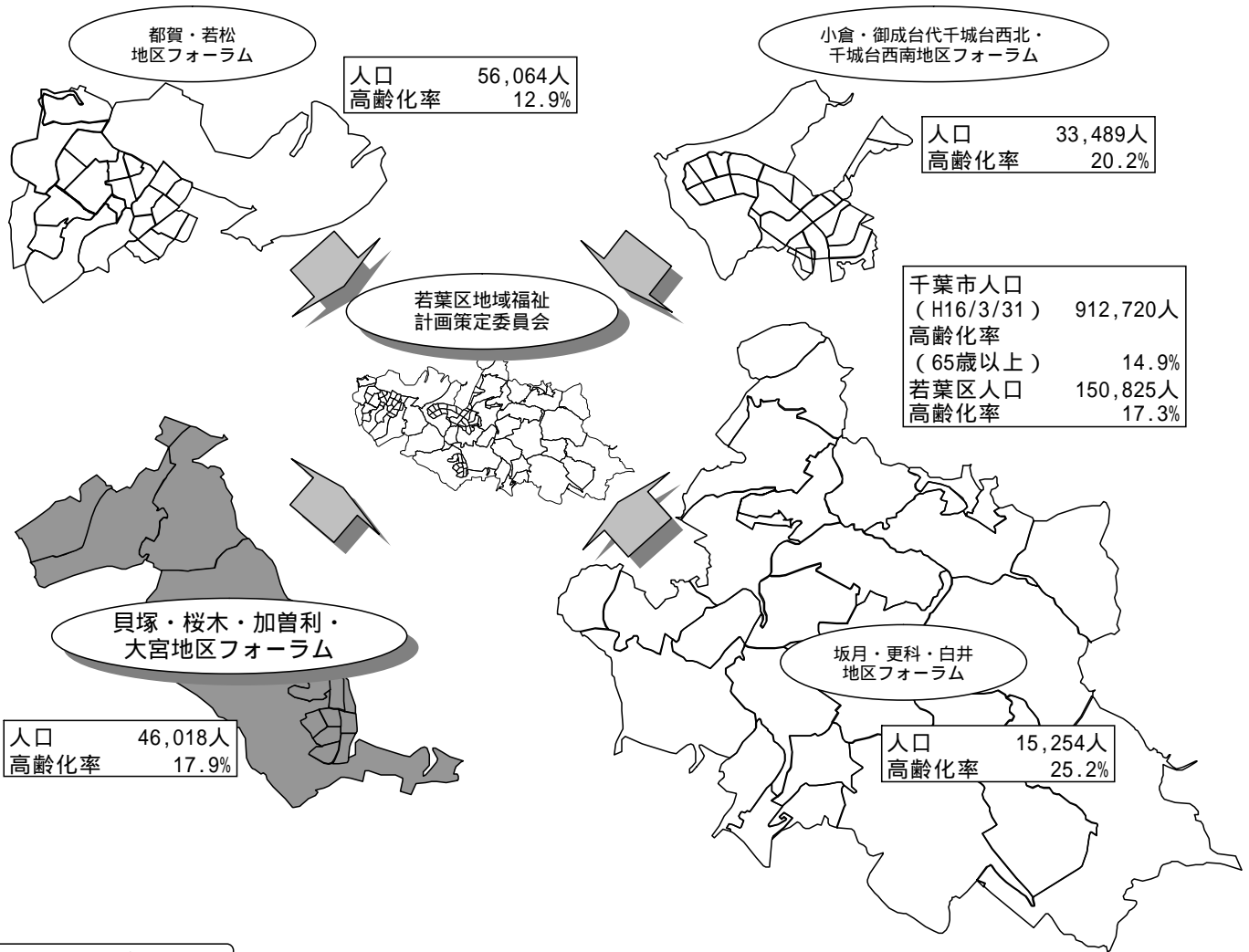
その結果を今後地域福祉計画の素案としてまとめていく予定です。

策定体制

区地域福祉計画の策定は、区を4つの区域に分け、それぞれに、市民の自発的組織である「地区フォーラム」を設け、さらに区策定委員会を設置します。

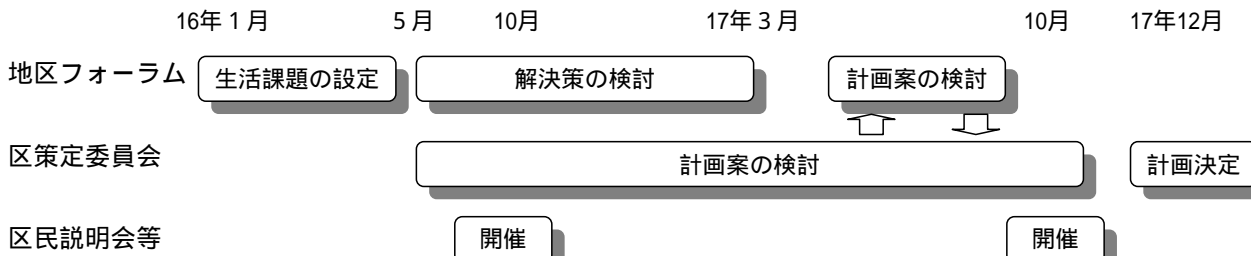
「地区フォーラム」は、支援を必要とする地域住民の生活課題を考え、それに対応する福祉サービスの現状をふまえて、自助・共助・公助の視点から解決策（必要な福祉サービス）を検討します。

区策定委員会では、「地区フォーラム」での検討を基に、区計画をとりまとめます。



策定スケジュール

計画の策定は、平成16年1月から17年度までの2年間をかけて行います。なお、計画期間は平成18～22年度までの5年間で3年ごとに見直しを行います。



フォーラムの これまでの取組

地区フォーラムではこれまで、平成16年1月から9月までに計8回の会合を開催してきました。その他に若葉区内の4つの地区からそれぞれ6名ずつのフォーラム委員

が集まり討議する、区策定委員会議の第1

回が5月に開催されました。

それぞれの内容は表の通りです。

地区フォー

ラムは主に日曜日の午前、又は午後

に2時間ほどかけて行われていま

す。第3回以降はフォーラム

を2つのグループに分け、7、8名のグループで討議して

開催日	内容
1月25日	自己紹介、概要・スケジュール説明
2月8日	区策定委員選出、フォーラムを2グループに分ける、地域の問題点を提案
3月21日	問題に対する課題設定、順位付け
4月18日	2グループに別れて優先課題の検討
5月16日	区策定委員会議(若葉区合同会議)
5月23日	第1 優先課題について討議
6月19日	(任意開催)これまでの討議の整理、分析
7月3日	実行可能な事業の検討
8月29日	事業の具体案について持ち寄り検討、生活課題の設定
9月12日	解決策の検討
12月まで毎月開催	

います。

若葉区は他の区に先行し、1月が

地区フォーラムには、こんな人たちが参加しています



区策定委員作業部会
ちばコープおたがいさま

介護センター

(高野町) 間々田 優子

こんにちは。生活協同組合ちばコープ 間々田と申します。

千葉市の地域福祉計画づくりに参加させていただいて、私達の暮らしている地域には、町内会・老人クラブというおなじみな団体の他にも、民生委員さん、社会福祉協議会や身障者の団体、介護保険の事業者(施設・在宅)、幼稚園や学校など本当にたくさんさんのネットワークがあるのだと改めて知りました。

私達はちばコープは、介護保険のケアプランや訪問介護、福祉用具の事業者であるとともに、「地域の人と

らの開催となり(他の区は4月から)、8月の時点で「解決策の検討」からまとめの段階として、具体的な事業の「計画案の検討」の段階に入ってきています。第2回の区策定委員会議において、それぞれの地区フォーラムから具体的な事業計画案が持ち寄られる予定です。

一緒に「誰もが安心して暮らせる優しい街づくりをすすめよう」と「ちばコープおたがいさま」という組合員同士の有償たすけあいシステムも平成十一年より行っています。千葉県全体で、年間五千時間を超える活動になっていきます。

でも、それぞれが知り合えていない状況だということもわかってきました。私達のグループでは、お互いの活動を知り合える。情報の共有化をゴミの収集ボスターのように解りやすく、みんなが身近に活用してもらえような形でできな

いかと考え始めました。
また、私達が「ちょっと気になる」「心配だな」という人をいかに見守るか?という話し合いをする中で、「私達が勝手に見守りが必要と思っても、相手は必要無いと思ってしまうことも多いはず」だからこそ、「そこに住んでいる人たちの声をきちんと聴くことから進めなければいけないね」ということを気づき、話し合いをしています。どうぞあなたの声をフォーラムのメンバーに寄せてください。そして、一緒に暮らして住んでいて良かったと思える街づくりをしていきませんか!



事務局

千葉市社会福祉協議会

生田 淳子

地域福祉計画の策定にあたり、事務局としてお手伝いをさせていた

だくことになりました。千葉市社会福祉協議会の生田淳子と申します。フォーラムがはじまり半年が過ぎましたが、回を重ねる毎に委員の皆様とのつながりがより深くなっていくのを拝見し、地域福祉を考える上で、人とのつながりは大切だということ、改めて実感しています。このつながりがはじめの一步となり、やがて人と人の大きな輪となつて、暮らしやすい地域づくりができるように、皆様と一緒に活動していきたいと思っています。

「フォーラム」とカタカナ書きすると、堅苦しい場を想像してしまうかも知れませんが、実際は、楽しく、活発に意見交換をしています。傍聴することが出来ますので、是非一度ご参加ください!

地域福祉

実践例



「地域で暮す」

フォーラム委員

知的障害者生活ホーム

働く仲間の家

高梨 正明

私共、「生活援助グループ高梨」が運営する知的障害者生活ホームは「働く仲間の家」をはじめ、市内に「サンライズ千葉」「ホープビル」と3ヶ所のホームがあり、計十三名の知的障害の方が地域で生活をしています。「障害者が地域でよく当たり前の生活をする」これこそが私共の考える地域福祉の実践です。この試みは昭和五十六年、設置者である高梨正明が、家族と共に暮す街中の一軒家に、知的障害を持つ女性1名を入居させたことから始まりました。この時



駅から8分 好立地の「働く仲間の家」

代、つまり「施設福祉」(注1)が一般的であった二十二年前、世話人の高梨一家と近隣の住民が知的障害者を受け入れた時点から、この街では障害者と地域との交流が日常的に行われてきました。今こそ、毎朝の作業所までの出勤風景や、休日、近くのスーパーでの数時間のウィンドウショッピングは見慣れた光景となつていますが、ここに至るまでの道のりが、どれだけ険しいものであつたかは想像に易いでしょう。しかし、昔の苦労話をお話しても、あまり意味の



休日は気の合う仲間とショッピング

無い事ですし、何より原稿用紙が何枚あつても書き切れませんが、ここで申し上げておきたいのは、その一つ一つのエピソードがあつたからこそ、現在の障害者を一員とした地域コミュニティが出来上がっているということなのです。これまで、生活ホーム利用者が地域で生活をしていく過程で、住民との間に様々なトラブルが起きました。そのきっかけとなる出来事は、その都度異なりませんが、根底にある原因は共通しているように思います。一つは生活ホーム利用者が、地域で生活する為の様々なルールを知らない事。もう一つは地域住民が

「知的障害」を正しく理解していない事。この事が原因で双方に摩擦が生じ、時に近隣トラブルとなつてきました。こうした時、私共、世話人が仲介に入り問題を解決していくわけですが、その際、忘れてならないのは、双方が歩み寄れるような働きかけをするということなのです。利用者には地域のルールを、そして住民には障害に対する理解を求めていくことです。この様な、やりとりがまさに、私共が実践してきた地域交流そのものであります。さらに、この事から地域福祉の実現には、当事者の努力と、地域住民の理解と協力、そして福祉関係者のサポートが必要不可欠な要素である事がお分かりいただけると思います。

「地域福祉」や「地域交流」これらは何も特別な取り組みではありません。「障害者が地域でよく普通の生活を送る」ただそれだけのことなのです。

地域の方のご意見募集

地区フォーラムでは、貝塚・桜木・加曽利・大宮地区にお住まいの皆さんからご意見を募集しています。地域の福祉を良くしていく上でのご意見や、このニュースへのご意見・ご質問などがございましたら、下記の問い合わせ先までお電話、FAXにてご連絡ください。

4つの地区フォーラムでの検討内容を発表する合同フォーラムを開催します。

日時：10月17日(日)
午前9:30~12:00
場所：若葉区役所講堂(2階)
地域の方はどなたでも傍聴できます。
是非ご来場ください。

問い合わせ 千葉市 保健福祉総務課

電話(245)5158 FAX(245)5546

<http://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/somu/chiiikifukushikeikaku/>

注1)「施設福祉」障害者の生活の拠点が、入所施設にあつた時代を示す造語 本文では生活ホームと対極の意味で使用している。